

【 #1 自分次第】

(2015.1.2)

三十一歳の時、古くからの友人より H 氏の紹介を受ける。場所は大阪。当時の私は、雇われ人を辞めて独立したばかり…

H 氏「君は独立をして何をやりたいのか？」私「ゆくゆくは、社会に貢献出来る事を生業としたい。」

H 氏「…何を烏滸がましい。自分一人の収入さえまならないのに、社会貢献・他人のことを考えるなど傲慢の極み…。」

未熟な私はこの云われに何の対抗も出来ず、怒りにも似た感情を抱きその場を後にした。そして東京に向かう新幹線の車中…反骨精神から、自分の理想(夢)の具現化を誓うのであった…。

読者の方はこの事実をどの様に捉えられるであろうか？

様々なご意見はあろうと思うが、今の私は当時の私と違う感覚を持っている。

三十一歳の私は、財も地位も有り大人でもある H 氏が「社会に貢献したい」と考える若者に対しての残念な物言いに怒りを覚えた…。

四十四歳の私は「H 氏には私が、自身の生活も出来ない人間に見えただけ…。」と考えている。

この様に考えると、H 氏に対する怒りにも似た感情は湧かず「自らの不徳の致すところ、もっと精進せねば…。」と思えてくる。

妥協・屈服では無く、この考え方(自分次第)が正しい。

「周囲の人々から自分がどのように見えているか？」

この事に感情的になるのでも感傷的になるのでも無く、謙虚に事実を受け止めて、成りたい自分になる為の行動企画を立案。実行に移して欲しい。そこには必ず、自己の望む変化が現れるはずである。

「自分」= 己(おのれ)。

「次第」= 経過してきた状態・なるに至った理由、事情。

「自分次第」= 己(おのれ)の意向・己(おのれ)の捉え方如何(いかん)。

石川 玄一 